

低学年

- 主題名 しんせつにすると気持ちがいい（B 親切、思いやり）
- 教材名 はしの上のおおかみ（『わたしたちの道徳』1・2年）
- ねらい 親切にすると自分も相手も気持ちよくなるのがわかり、身近にいる人に温かい心で接しようとする心情を育てる
- 学習指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	具体的な指導・援助
導入 2分	<p>1. 親切にされた経験とその時の気持ちを出し合う。</p> <p>◇ねらいとする価値への方向付けを行います。 ※短い時間で。 ※意欲的になれるよう、明るい話題で。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「これまでに誰かにやさしくしてもらったことはありますか」と尋ねる。 ・「その時、どんな気持ちでしたか」と尋ね、「親切にされることの気持ちよさ、うれしさ」について、確認する。
展開 40分	<p>2. 教材「はしの上のおおかみ」のペープサートを用いた話を視聴し、話し合う。</p> <p>◇ペープサートの活用は、教材の中に入り込みやすく、自分との関わりをもつために有効です。</p> <p>◇低学年での範読は、ねらいに迫る場面で間をとることで、主人公等に対してつぶやけるようにする工夫も考えられます。</p> <p>○おおかみが、うさぎに通せんぼうをして「えへん、へん。」と言ったとき、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おれは、強いんだぞ。 ・この橋はおれのものだ。 ・通せんぼするのは、おもしろい。 ・小さいうさぎなんかにはわたらせないぞ。 <p>◇「おおかみは、こんな気持ちがあったんだね」ではなく、「おおかみも、こんな気持ちがあったんだね。」とまとめると読み取りではなく、自分との関わりをもたせることができます。</p> <p>○くまの後ろ姿をいつまでも見ていたおおかみは、どんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまさん、ぼくより強いのにやさしいなあ。 ・くまさんはかっこいい。ぼくもくまさんみたいになりたい。 ・ぼくはいじわるだった。ごめんなさい。 ・これからは、どの動物も通すよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめの前に登場人物（おおかみ、うさぎ、くま等）を確認する。 ・本時は、全員がおおかみの気持ちになって考えることを伝える。 ・「えへん、へん」と言ったおおかみの気持ちを考えさせ、自分より小さい動物や弱い動物に対して、いばったり、優越感を感じたりしているおおかみの多様な気持ちに気づかせる。 ・くまの優しさへの感動や反省、くまへの憧れなど、多様な考えが出るように、おおかみに吹き出しをつけた図を示し、中に入る言葉を考えるようにする。 ・おおかみがうさぎを通してあげる場面を、絵を見せながらもう一度読み、最後の場面を思い起こさせるようにする。

	<p>◇価値のよさを味わうとき、役割演技を行うと効果的です。</p> <p>◇役割演技を行う際は、ねらいに迫るために、児童はおおかみ役としています。</p> <p>◇演技を見ている児童に対しても、親切のよさに気づくような発問を工夫しましょう。</p> <p>◇「今の演技を見てどう思ったかな」と問うと表現力の上手・下手、声の大きさ等の反応が出ることがあります。「おおかみは、どんな気持ちになったかな。」などと親切のよさを引き出せる発問を工夫しましょう。</p> <p>○うさぎを通してあげて「えへん、へん。」と言ったおおかみの気持ちを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、くまさんみたいにかっこいいぞ。 ・いいことをすると気持ちがいいな。 ・やさしくできてよかった。 <p>3. これまでの自分の生活を見つめる</p> <p>○今まで親切にしたことにはどんなことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちがけがをした時に保健室までつきそった。 ・忘れ物を届けた。 ・友だちの片づけを手伝った。 ・ブランコを代わってあげた ・なくしものを一緒に探してあげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおかみ役を児童、うさぎ役を教師が行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・おおかみがうさぎに親切にしたことで、相手も自分も気持ちよくなったことに気づかせる。 ・はじめの「えへん、へん」と比べて、おおかみの気持ちに変化していることを押さえる。 ・発問をした後、様々な場面で見つめられるように事例を紹介する。 ・親切にされた児童が学級にいれば、その時の気持ちも話してもらい、親切にすると相手も自分もうれしくなることを押さえる。 <p>◇児童の発達段階に応じて、自己を見つめる活動を入れます。ここでは、低学年ですので、「自分の行為」を見つめています。</p>
<p>終末3分</p>	<p>4. 教師の話聞く</p> <p>◇教師の体験談（直接体験、間接体験）は、児童の心に響くものを準備します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の児童が友だちに親切にしている場面について感じたことを話す。

<板書計画>

◇「えへん、へん」は、短冊に書いて貼ります。



◇3つの場面に分けて挿絵を掲示し、話の流れを捉えやすくしています。

◇親切にすることで、「相手も自分も」「気持ちがいい」というようなキーワードが出てきた時は、色チヨークで板書し、ねらいに関わる感じ方や考え方を押さえるようにします。

◇それぞれの場所に板書した児童の意見を、最後に大きく囲んで矢印を書くことで、人間理解と価値理解の内容をとらえます。